

福井大学大学院  
国際地域マネジメント研究科

University of FUKUI  
Professional Graduate School of  
Global and Community Management



### 研究科の概要

モノ・カネ・ヒト・情報のグローバル化と並行して地域社会や経済の将来が危ぶまれる現在、地域の企業や自治体にとって、地域に軸足を置きつつ、国際的な視野から事業や施策を考え行動していくことが不可欠となっています。国際地域マネジメント研究科では、こうした観点から、それぞれの現場で事業や政策を立案し、実行する際に牽引的な役割を担うマネジメント・リーダーを養成します。

主な対象は、既に企業や自治体等で地域における住民生活や企業活動が直面する課題、海外と関連した事業の開拓・展開といった課題に日々格闘している従業員・職員です。こうした方々に、地域の将来にとって必要な国際的な視野と知識、事業の企画・運営に必要なマネジメント能力、および語学力・コミュニケーション能力を身につけさせ、現場のマネジメント・リーダーとして多様な活躍ができる人材へと成長させます。

取得学位	国際地域マネジメント修士(専門職) Master of Global and Community Management
修学期間	2年
選抜方法(募集人員)	◇ 社会人特別選抜(7名程度) ◇ 一般選抜(若干名)
入学定員数	7名



授業風景



グループワークの様子

### 福井大学大学院国際地域マネジメント研究科 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

現在の地域社会では、グローバル化の進展に関連して地方の企業や自治体が抱える諸課題の解決に挑戦する優れたマネジメント・リーダーを育成することが期待されています。福井大学国際地域マネジメント研究科では、これを踏まえ、また本学大学院の学位授与方針に則り、以下の資質・能力を身につけるとともに、それらを課題の解決に活用・実践できる者に、国際地域マネジメント修士(専門職)の学位を授与します。

- 国際情勢やグローバルな経済環境の視点から地域の企業や行政上の課題の解決策を考察し、提示する力
- 問題を発見し、計画の策定や事業の拡大に取り組むために必要な専門知識、および情報収集・情報活用能力
- 新規事業や改善のための企画構想力、および事業計画の遂行のために必要なリーダーシップ
- 異文化感受性と多様な思考に対する受容性を備えたコミュニケーション能力とストレスコントロール力



### 求める学生像

(1)本研究科の人材育成の目的を踏まえ、以下のような態度や資質を持つ学生を求めます。

- 地域や自己の所属する組織が直面する複雑な課題に対して、中核となる人材として主体的に取り組む意欲を有する人
- 海外の諸地域や国際事情、および外国語に対する知的関心を持ち、積極的に情報収集を行う姿勢を有する人
- 異なる文化、また異なる業種の人々との交流をいとわず、互いを尊重しながら議論を交わす資質を有する人



(2)入学前に学習・修得しておくことが期待される内容は以下の通りです。

- 企業・自治体等に勤務する者については、自己の所属する組織や自己の携わる業務に関する広範な知識、および世界や地域に生起する諸課題に関する基本的な知識と定見を備えていることが期待されます。
- 企業・自治体等に勤務する者以外の者については、社会科学の諸分野の基本的な知識、および異文化理解に関する素養と英語を中心とする基礎的な語学力、コミュニケーション能力を身につけておくことが期待されます。

### 教育課程の特色

授業科目は、「地域と世界の現状と課題を知る」「マネジメント能力、リーダーシップを育成するために必要な専門知識(戦略・組織・マーケティング・企業情報)」「語学力(英語・中国語)・コミュニケーション能力」の3つの内容を中心に開設されます。

1年次前期・後期(夏季・春季集中を含む)にはベーシック科目(国際・地域、マネジメント:必修)、1年次後期・2年次前期(同様)にはアドバンス科目(企画・交渉力に関する分野:必修、個別課題に関する分野:選択必修)が配置されています。多くの科目は、教員と院生との双方向性、院生間の討議を重視し、ディスカッションやプレゼンテーション等を含んで進められます。また、1年次後期(春季)には、院生全員と複数の教員が参加する事業課題ワークショップを行います。

さらに、本研究科の実践的・専門的なカリキュラムのコアとして、2年次後期に「海外実地研修」を実施します。ここでは、海外の事業の現場で調査や実務に取り組むことで、それまでの学習内容を院生個々の問題意識に即して磨き上げます。

最後に、院生各自が設定したテーマに関する調査・考察、および2年間の学びの自己評価を最終報告書としてまとめます。

授業時間は、平日火・木曜日の6限(18:00~19:30\*)、7限(19:40~21:00\*)及び土曜日の1限(8:45~10:15)、2限(10:30~12:00)、3限(13:00~14:30)、4限(14:45~16:15)とし、社会人の院生が通学しやすいように時間割を編成します。 ※時間が変更される場合があります。



### 学費・選抜方法等

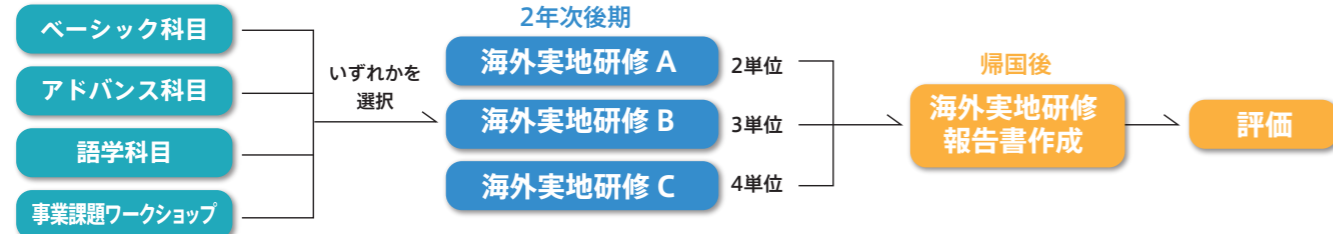
入学料	282,000円	検定料	30,000円	授業料(年間)	535,800円
-----	----------	-----	---------	---------	----------

※海外実地研修の費用(渡航・宿泊・滞在費等)は別途必要になります。  
 ※選抜方法、出願資格、出願期間等については募集要項をご覧ください。  
 ※これらの納付金額は予定額であり、入学時および在学中に改定された場合は、改定時から新たな納付金額が適用されます。

2年間の履修モデル

科目区分	1年次前期	夏季	1年次後期	春季	2年次前期	夏季	2年次後期
ベーシック	海外事情研究Ⅰ 国際関係論 地域産業論 経営戦略論		海外事情研究Ⅱ マーケティング論Ⅰ データ分析手法				
アドバンス (企画・交渉力に 関する分野)		事業デザイン論 (集中講義)			海外事業実践論		
アドバンス (個別課題に 関する分野)			国際ビジネスリスク論	東南アジア ビジネス事情 (集中講義)	企業会計・財務・ データ分析	管理者行動論 (集中講義)	
語学	English CommunicationⅠ English Reading/WritingⅠ		English CommunicationⅡ English Reading/WritingⅡ				
ワークショップ			事業課題 ワークショップ (集中講義)				
海外実地研修			(研修先の決定)		(研修計画の作成)		海外実地研修A(バンコク) (成果報告)
最終報告書							最終報告書 (公開発表・審査)

1年次前期～2年次前期



海外実地研修の詳細

海外実地研修 A

主に、現地での事業環境や海外事業の諸課題を学ぶことを通じて、グローバルなビジネス感覚やコミュニケーション能力を実践的に身につけることを期待する企業や自治体等の従業員、職員向けの研修。3～4週間にわたり、海外事業所等において、1カ所ないし複数個所で業務全般の体験を行うとともに、院生が事前に設定した特定のテーマに即して当該研修先や関連取引企業、マーケット等を調査する。

海外実地研修 B

新規事業を構想する際に必要な人材を求めている企業や自治体の従業員、職員を対象として、通常の実務では経験のできない体験を通して新たな知見や発想のできる人材を養成するのに適した研修。JICA海外事務所2か月間のインターンシップを行い、カウンターパートとのコミュニケーションや信頼の築き方、プロジェクトを実施する際の問題解決のプロセスを体験する。

海外実地研修 C

複数の異なる背景を持つ人々との間でのディベート力や組織運営に関する実務的な能力といった、より高度なグローバル人材を求める企業や自治体の従業員、職員を対象とする研修。ユネスコで、半年間にわたり多国籍チームに研修員として加わり、複数の異なる価値観や文化的背景を持った人々との議論の進め方など国際的な場での組織運営について体験的に習得する。

修了生インタビュー



地域企業との交流や  
ニューヨークでの研修で  
地場産業の  
可能性を実感。

株式会社パッケイ 常務取締役  
2022年卒業  
黒川 武志さん

第1期生・黒川武志さんに本科へ入学した理由や、2年間の学びの成果を語っていただきました。

私はショッピングバッグやオリジナルパッケージを製造する株式会社パッケイで、常務取締役をしています。本科へ入学した理由は、市場環境の変化に直面する企業がどのように対応していくかを探究したいと思ったからです。大学院で多様なバックボーンを持つ人々と交流し、会社に新しい風を入れたいという思いもありました。

授業では期待どおり、多くの出会いがありました。商工会議所や海外進出する企業の方から講義を受け、地場産業の全体像と各企業の独自性が見えてきました。海外実地研修ではSHINDO※1のニューヨーク店で働き、地元の企業がオリジナリティで勝負し、ニューヨーカーから選ばれている頼もしさを感じました。在学中、教員の勧めで、ふくいSDGsパートナーに登録し、越前和紙の端材で手提げ袋をプロデュースしたのですが、ニューヨークでの研修では、この商品を現地企業に売り込み、受注に結び付けました。弊社は今後、サステナブルなパッケージデザインを強みにしていくので、この成功体験は大きな収穫です。他にも、海外でビジネスプランを立てるワークショップや、ファシリテーターのスキルを上げる授業など実践的で新鮮な学びがありました。今は先が読みづらい時代ですが、大学院での多様な学びと出会いを生かし、時代に求められるビジネスを展開していきたいです。



店舗での研修風景

※1 服飾副資材を中心に産業資材やシリコンなどを手掛けるメーカー。福井県あわら市に本社を置く。